

- ① 人としての基本的態度、医療・福祉に携わる者として命を尊び共感的態度を持ち、人間性や倫理観が養われ、それに基づいた思考・活動ができる。
- ② 常に自己を客観的に見つめ、内省することができる。

- ③ 言語聴覚士に必要な基本的な知識および技術を身につけ、保健・医療・福祉・地域の関連性や連携を意識し、チームの一員として行動ができる。
- ④ 生涯にわたり主体的に学び続け、自己の役割と責任を果たすことができる。
- ⑤ 社会の変化やニーズ、幅広い関心や問題意識を持ち、変化を前向きに受け入れ柔軟な対応と問題解決ができる。

言語聴覚学科
教育課程

1年次

2年次

	前期		後期		前期	後期	
専門基礎分野	基礎医学	医学総論 解剖学Ⅰ		生理学 病理学			
	臨床医学	耳鼻咽喉科学		内科学 小児科学 精神医学 臨床神経学Ⅰ 形成外科学		リハビリテーション医学 臨床神経学Ⅱ	
	臨床歯科医学	臨床歯科医学					
	音声・言語・聴覚医学	解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学Ⅳ					
	心理学	臨床心理学Ⅰ 生涯発達心理学Ⅰ 学習・認知心理学 心理測定法		臨床心理学Ⅱ 生涯発達心理学Ⅱ			
	言語学			言語学			
	音声学	音声学					
	音響学	音響学		聴覚心理学			
	言語発達学	言語発達学					
	社会福祉・教育	社会保障制度 リハビリテーション概論 医療福祉教育・関係法規					
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害概論Ⅰ		言語聴覚障害概論Ⅱ		言語聴覚障害診断学Ⅰ 言語聴覚障害診断学Ⅱ	
	失語・高次脳機能障害学	失語症Ⅰ-1 高次脳機能障害学Ⅰ		失語症Ⅰ-2 高次脳機能障害学Ⅱ	臨床実習Ⅰ (見学実習)	失語症Ⅱ	臨床実習Ⅱ (評価実習)
	言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ-1		言語発達障害Ⅰ-2 言語発達障害Ⅳ		言語発達障害Ⅱ 言語発達障害Ⅲ	
	発声発語・嚥下障害学	嚥下障害Ⅰ	現場体験	構音障害Ⅰ 構音障害Ⅲ		嚥下障害Ⅱ 構音障害Ⅱ 構音障害Ⅳ 音声障害 吃音	
	聴覚障害学			小児聴覚障害Ⅰ 成人聴覚障害Ⅰ 成人聴覚障害Ⅱ		小児聴覚障害Ⅱ 小児聴覚障害Ⅲ 成人聴覚障害Ⅲ 補聴器・人工内耳 視覚・聴覚二重障害	

言語聴覚士国家試験

国家試験対策スタート

国家試験対策強化

1年次
専門基礎分野では心身の構造に関する理解を深めるために、基礎医学・臨床医学・心理学等を学ぶ。
専門分野では、言語聴覚法の基礎を学び、評価できるようにしていく。

2年次
専門基礎分野では引き続き心身の構造に関する理解を深めるために、基礎医学・臨床医学・心理学等を学ぶ。
専門分野では各障害の理解とプログラム立案を学ぶ

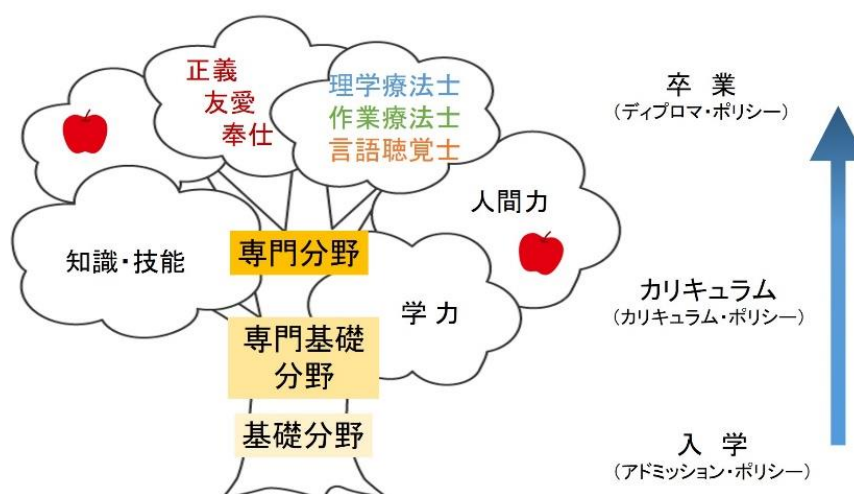
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）リハ科

本学の教育課程編成・実施の方針（共通）に加え、リハビリテーション3学科において以下のカリキュラム・ポリシーを定める。

（方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる知識、技能を理学療法・作業療法では3年間、言語聴覚療法では2年間で修得し、社会に貢献できる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を育成するため、学年ごとの目標に対して段階的に次の教育内容を実践します。

図は、本学での入学から卒業までの流れを木(Tree)でイメージしたものです。木の根もとには、基礎分野があり、幹には、専門基礎、専門へとつながります。木の幹は、根もと部分の基礎力という栄養を吸収し、専門力という実になり、卒業時には、学力および人間力を兼ね備えた教育課程・編成となっています。



理学療法学科におけるカリキュラム・ポリシー

1 年次は、基礎分野では科学的思考の基盤、人間性・倫理観を高め、社会の理解を深めることを目標に、人文科学、社会学、自然科学、保健体育を学びます。

専門基礎分野では主に理学療法士に求められる一部の基礎医学やリハビリテーションの理念などの理解を深めることを目標に病理学概論や臨床医学、リハビリテーション概論などを学びます。

専門分野では、理学療法の基礎や評価・治療の実技の一部や、臨床見学実習Ⅰを通じて、医療、福祉、地域における理学療法業務の業務内容や心構え、その領域の専門職連携(多職種連携)における理学療法士の役割を学びます。

2 年次は、専門基礎分野ではさらに理学療法の対象となる人々の疾病と障害の成り立ち及び回復過程の理解を深めることを目標に整形外科学や神経科学などを学びます。

専門分野では評価方法・治療方法理論と技術の修得を目標に、基礎となる技術について、講義と演習を交えながら学びます。臨床見学実習Ⅱでは1年次同様である。臨床評価実習では、学内で習得した検査・測定を臨床で実施し、結果の情報を整理することを目標に臨床で学びます。

3 年次は、専門分野では臨床総合実習および国家試験や就職に向けてこれまでに学んだ内容の総復習や、知識や幅広い視野を身に付けることを目標に理学療法総合演習Ⅲで学びます。

臨床総合実習Ⅰ・Ⅱでは、対象者の評価や治療プログラムの立案・実施、再評価までの一連の過程を経験することを目標に臨床実習指導者の指導の下に病院や施設で学びます。

作業療法学科におけるカリキュラム・ポリシー

1年次は、基礎分野では、科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解を深めるために、人文科学・社会科学・自然科学・保健体育などを学びます。

専門基礎分野では、心身の構造に関する理解を深めるために、解剖学・生理学・運動学などを、また、リハビリテーション理念などの理解を深めるために、リハビリテーション概論などを学びます。

専門分野では、作業療法の基礎や評価・治療の実技の一部や、臨床実習Ⅰを通じて、医療、福祉、地域における理学療法業務の業務内容や心構え、その領域の専門職連携(多職種連携)における作業療法士の役割を学びます。

2年次は、専門基礎分野では、作業療法の対象となる人々の、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の理解をさらに深めるために、神経内科学や整形外科、精神医学などを学びます。

専門分野では、作業療法の各領域(身体障害、精神障害、発達障害など)における作業療法評価及び治療についての理解と技術の修得をするために、講義と演習を交えながら学びます。

臨床実習Ⅱでは、学内で習得した評価方法を臨床の場で実施し、評価結果から対象者の全体像をまとめ、作業療法目標とプログラムを立案できることを目標としています。

3年次は、臨床総合実習Ⅰ・Ⅱでは、病院や施設の臨床実習指導者の下で、作業療法評価を実施し、評価結果から立案した作業療法目標およびプログラムを実施した後、再評価を実施するまでの一連の過程を学びます。

臨床総合実習Ⅰ・Ⅱで経験したことは、卒業論文としてまとめます。

また、作業療法総合演習では国家試験に向け、3年間で学んだ内容を総復習します。

言語聴覚学科におけるカリキュラム・ポリシー

1年次は、専門基礎分野では心身の構造に関する理解を深めるために、基礎医学・臨床医学・心理学等を学びます。専門分野では、言語聴覚法の基礎を学び、評価ができるようことを目指します。

2年次は、専門基礎分野では引き続き心身の構造に関する理解を深めるために、基礎医学・臨床医学・心理学等を学ぶ。専門分野では各障害の理解とプログラム立案を学びます。

臨床実習においては言語聴覚療法の実際を学びます。